

2016年「ガラス産業連合会新年会」報告

(一社) ニューガラスフォーラム事務局

Report on the New Year Party 2016 of the Glass Industry



左から、硝子繊維協会、板硝子協会、電気硝子工業会、日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、ニューガラスフォーラムの各会長

2016年1月22日(金)、たいへん厳しい寒さの中でしたが、東京都千代田区の銀行倶楽部にて、恒例の「ガラス産業連合会(GIC)新年会」が開催されました。

ガラス産業連合会が2000年3月に設立され、翌々年の2002年から開催しているこの新年会も今回で第15回目となりました。今年の新年会も、経済産業省、学界、会員企業、関連団体、報道機関等合計349名の参加を頂きました。この新年会は、連合会に加盟する板硝子協会、硝子繊維協会、一般社団法人日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、電気硝子工業会、一般社団法人ニューガラスフォーラムの6団体で主催しており、今年は、硝子繊維協会の近藤裕専務理事の司会により開催されました。



始めに、狐塚章ガラス産業連合会会長(旭ファイバーグラス株式会社代表取締役社長)のご挨拶があり、そのご挨拶要旨は次の通りでした。

“昨年12月の「COP21(パリ)」にて温室ガス削減目標が設定され、今後、国内対策が勝負の

時を迎えます。ガラス産業はエネルギー多消費産業でもあり、ガラス産業連合会の重要な課題として、今後とも取り組んでいかなければならないと思います。ガラス産業では、窓ガラスや断熱材などの省エネに貢献できる製品を扱っており、排出量削減には大いに貢献できると思います。ガラス産業連合会は発足から15年が経過しましたが、各加盟団体とも、大きく経済環境が変化したこともあって、また新たな取り組みを議論すべき時期になっていると思います。今後とも、ご支援、ご協力のほど、お願い致します。”



次に、ご来賓代表として、福島洋経済産業省製造産業局大臣官房審議官からご祝辞があり、その要旨は次の通りでした。

“年初来、世界経済には不透明感が漂っているが、設備・技術・人材等の投資を引き続き行って頂き、日本経済を牽引して頂けることを期待します。またグローバルな観点で活動されることもお願いしたいと思います。ガラスは産業資材・生活資材に欠かせない製品であり、人の生活を豊かにし、快適にし、健康を保ち、地球温暖化の点では省エネにもさらなる期待ができる分野なので、新しい製品を世に送り出して欲しいと思います。過去の歴史を見ても、ガラスは技術品であり文化・文明を支えてきた生活資材であり、先端の産業生活を支えるだけでなく、人の心を豊かにする芸術品創出の観点でも協力頂きたいと願います。昨年、板ガラス分野では

ありますが、「産業競争力強化法第50条に基づく調査」を行い、2030年に向けて需給ギャップが拡大するという結果を報告しました。日本にガラス産業は無くしてはならないものですが、板ガラス以外でも皆様の産業がさらに安定的に発展していくためには、健全な収益をあげて持続可能な企業活動を継続することが原点だと思います。そういった産業政策を経済産業省ではしっかりと行っていきたいと思っています。今年がさらに充実した1年になることを祈念します。”



また今回、ガラス国際会議（ICG）の2018年年会日本開催が決まったことを受け、井上博之東京大学生産技術研究所物質・環境系部門教授からご説明がありました。ご報告の内容は次の通りでした。

“ICG国際ガラス会議は国を代表するセラミックスやガラスの学会・協会が加盟する世界最大の組織で、大きく3つの役割を担っています。(1)毎年国際会議を開催する(3年に一度の”Congress”と毎年の年会)、(2)ガラス分野の様々な課題に対して”技術委員会”を組織してワークショップなどを実施する、(3)この2つの活動を通して、各国のガラス技術者の交流と相互理解を促進する。2015年の年会(タイ・バンコク)で2018年に日本でICG年会を開催することが決定しました。このバンコク年会では、ICGにおける日本の大きな貢献をアピールできたことも招致の要因の一つと考えます。具

体的には、2018年のICG年会は、9月24-27日の4日間、横浜で開催されます。是非参加をお願いしたいと思います。この年会のテーマは、“Innovative Glass and Technology Contribution to Sustainable Society (革新的なガラスと技術の接続可能な社会への貢献)”とし、次の3つの柱で支えています。(1)Innovative Glasses for Intelligent Life (知的生活のための革新的なガラス)、(2)Innovative Processes and Technology for Energy Saving (省エネルギーのための革新的なプロセスと技術)、(3)Innovative Glasses and Processes for Radioactive Waste Management (放射性廃棄物のための革新的なガラスとプロセス)。この柱によって日本から様々な情報発信ができたかと考えます。招致が叶った背景には、これまでの日本のガラスにおける貢献とともに、今後も大きな期待があると考えます。これに応えるためにも、日本におけるさらなる発展が望まれ、また2018年の会議が一つの終着点ではなく、新たな進展の起点になることを期待します。ICG活動は国際会議とともに、技術委員会も活性化する必要があります。皆様も大いに活用頂ければ幸いです。今後ともご支援よろしく申し上げます。”



その後、岡本毅ガラス産業連合会副会長による乾杯のご発声により歓談となりました。



16時から始まったガラス産業連合会の新年会でしたが、歓談の時間は瞬く間に経過し、17時半頃に、牧島亮男ガラス産業連合会理事によるご挨拶で中締めとなりました。

今年開催場所となった銀行倶楽部も来年には改修工事に入るため、再び開催場所が変更される予定ですが、来年のガラス産業連合会新年会も盛大に開催されることを祈念したいと思います。

